

「弁護士」と市長との「“本気”で語ろう会」 会議録

団体名	弁護士
日時	令和元年7月18日（木）17:00～18:30まで
場所	リナシティかのや
参加者	弁護士 4名
	市長、政策推進課長、総務課長

意見交換

- ・鹿屋市の地域社会問題について
- ・鹿屋市の良い点、魅力
- ・鹿屋市活性化に向けた今後の改善ポイント

【弁護士の意見等】

○最近の社会問題について

- ・DVや離婚問題が深刻化している。
- ・離婚問題で一番の争点は、子どもの親権問題と養育費等の金銭問題。
- ・大隅学舎の『つながり（児童家庭支援センター）』は離婚家庭の親と子どもの面会交流を行っている。面会交流の場所と機会を提供している。この取組は全国的にも珍しく、今後、提供回数を増やしていければ、先駆的な取組になる。今後、家族についても多様化することが予想されることから、面会交流の場は貴重になってくると思う。
- ・離婚の問題は、養育費を確実に取れることが大切である。離婚相手の資産等に関する情報を入手する方法が無いこと、転職や転居などを繰り返す人も多く、中々実態がつかめないことから、最近、養育費等を取れないケースも増えてきている。
- ・離婚に伴う貧困、いじめ、不登校などが社会問題になっており、貧困の連鎖もある。
- ・学びたい人が学べない、働ける人が働いていない現実がある。

○鹿屋の良さ・問題・改善ポイント

- ・自然が豊かで、観光資源も多い。自然だけど、自然のままではなく、自然にテコ入れしていくべきではないか。
- ・自然を生かした観光の取組をもっと拡大してはどうだろうか。  
ex) ユクサおおすみ海の学校、霧島ヶ丘公園キャンプ場、高隈山 など
- ・自転車、カヤック等を楽しむ環境が整っているの、ミニキャンピングカーのレンタルなどがあっても面白いと感じる。都市部の方は、「本格的」より、「手軽に」の方が飛び込みやすい。気軽な体験セットを提供するのもいいのではないかと感じる。
- ・みんなが来てくれる自然でないといけない。
- ・来た人それぞれがお気に入りを見つけられるような仕掛けが欲しい。

- ・志布志港が国際ハブ港湾として整備され、大崎町にトレーニングセンターが完成するなど、近隣自治体のハード面の充実によって、鹿屋市が空洞化していかないか心配。今後、高速道路が完全に整備されると鹿屋は置いていかれるのではないかと。
- ・外から来た人間は、賑わいのあった頃の昔話（桜デパート等）を年配の方から聞くと、うらやましいと感じる。
- ・「鹿屋とは」の答えになる鹿屋のアイデンティティを教えて欲しい。
- ・最近、バイパス沿いに市外企業が進出してきているので、地元の企業に頑張っていたきたい。
- ・特攻、食べ物、畜産については、全国にも魅力的な場所は多いので、他所との差別化をするなどして、もっとアピールをしていかなければならない。

#### ○その他

- ・学校、家庭、地域で、人材を育てていく環境が大事になってくる。
- ・ツールドおおすみは良い取組。地元がすすんで楽しめる取組が大事。
- ・各地方自治体は、それぞれ異なる特徴があるはずなので、そこを比較出来るようなものがあればと思う。都市部の子どもに、田舎の多種多様な経験をしてもらえる機会をつくり、第2のふるさととして認識してもらい、再び帰ってくるきっかけにして欲しい。
- ・職場に子どもを連れて行けるなど、企業も子育てを考えた取組が重要になってくる。働きながら子育てができる環境づくりが大事。今までとは違った考えが必要になる。
- ・田舎にあっても、都会の人が来たい企業が求められる。

## 【市長】

- ・経済格差が広がる中、地域の在り様、課題という部分でお聞きすることができた。
- ・観光に関しては、「見る」だけでなく、「体験」することが重要と考えている。昨年、霧島ヶ丘公園にマウンテンバイクパークがオープンしたほか、来春には南州農場の体験型の加工場がオープンする。今後についても、観光と体験をセットに色々取り組まなければならない。
- ・世代や目的に合わせて、色々なパターンの観光があってもいいと思う。その中で、各人が「鹿屋とは」の答えを見出していきたい。
- ・鹿児島には、年間100回、大型客船が入港している。この訪日外国人観光客を大隅へ呼び込みたいと考えている。
- ・人口減少については、鹿屋の一人勝ちという訳ではなく、大隅23万人の視点で考えていかなければならないと思っている。それぞれの市町に役割があって良いと思う。
- ・人口が減少する中で、空き家対策なども大きな問題となってくる。
- ・社会増につなげるために、Iターン、Uターンを増やす取組は大事である。地方にはまだまだ未進出の分野がある。地方の可能性をもっと知ってもらい、関係人口を増やすことも考えていかなければならない。これまでとは別の捉え方、活性化の基準を変えていく必要がある。
- ・出会いの場の創出と子どもを生み育てやすい環境をつくっていくことが大事。
- ・ネット環境の普及もあり、職場環境を整備すれば、どこでも働ける時代である。今後、企業と実証モデルでも良いので取組を進めたい。
- ・本日、いただいた様々なご意見を参考に、出来ることから一生懸命やっていこうと思う。今後も、様々な機会にご意見いただければと思う。